

【一般口演6】 第19席**『素問』三部九候の基礎・第1報**

東京 依田 良宗

三部九候は、『素問』の治療法の枢要をなすものである。それにも関わらず、今日は言うに及ばず、注釈書を鳥瞰すると、『素問』が成書した早い時期に、三部九候は消滅した、と思われる。三部九候の臨床記述は皆無に等しいのである。

三部九候が顧みられない理由に、『素問』医学の治療法の重点は刺絡であること、それに、三部九候は十二経脈に配当できない、ということが考えられている。本当にそうだろうか。

三部九候の系譜は、次の時代に生まれる脈診法の準備として位置付けられている。歴史は一途に、欠陥を補正する役目を負ってきたのか。それも疑問である。

解釈するとは何か。この一つの側面に、過去のものを過去のものとして、可能な限り純粹に受け取る、ということがある。再現化することである。

発表を何回かに分けて、過去化の作業をして、『素問』の三部九候の再構築を試みたいと考えている。